

第23回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会

日時：2014年6月2日 13:30-16:30

場所：国立科学博物館上野本館 4階大会議室

標本のリストや、種のチェックリストを作ったり、和名から学名を求めたり、学名を和名に直したり、学名をつなげたり、切ったり、地理情報を求めたり……。博物館で標本をデータ化したり、標本情報を利用したりする場合、様々な生物多様性情報を扱う必要に迫られます。そんな時には、既存のソフトにあるさまざまな機能やインターネット上で提供されているソフト（ツール）を使うのが便利です。しかし、そういうツールが身近にあるにも関わらず、その機能やツールの存在すら知らないで過ごしてしまうこともありがちです。

そこで、今回の研究会では、標本情報を扱っていく上での便利なツールを紹介し、情報交換します。

標本データ自体の作成については、お二人の講師の方々に、館用のデータからどのようにS-Net/GBIF形式を作成しているか、という実際の作業内容と問題点などを紹介していただき、参加者皆様の間で意見交換したいと思います。

その後、「仕事に活かせる！即効 生物多様性情報ツール」と題しまして、自然史情報データを活用する方法やツールの例をご紹介します。

= プログラム =

- 13:30～14:00 自然史情報のデジタル化～最近のトレンド
細矢 剛（国立科学博物館・植物研究部）
- 14:00～15:00 1 ダーウィンコア標準データ作成の実際 ―館用データからの変換
(途中休憩含む) 例1. 帯広百年記念館 持田 誠 氏
例2. 群馬県立自然史博物館 大森 威宏 氏
- 15:00～15:30 2 仕事に活かせる！即効 生物多様性情報ツール
神保 宇嗣（国立科学博物館・動物研究部）
1) データの集計あれこれ
2) S-Net データでお手軽チェックリスト作成
3) 地理情報を活用して、簡単分布図作成
- 15:30～16:00 総合討論